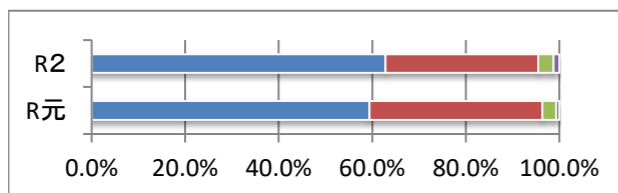


R2年度 佐賀大学教育学部附属小学校 前期学校評価(R元年度前期との比較)

1 学校や学級の目標(がんばること)を知っていますか。

【児童】

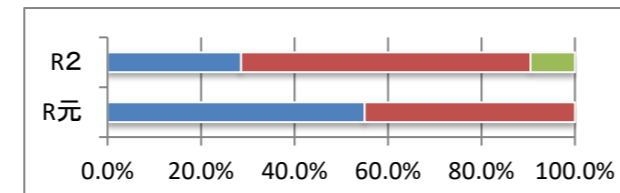
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	59.4%	37.0%	2.9%	0.7%	100%
R2	62.8%	32.7%	3.3%	1.2%	100%



1 学校は、学校(級)便り等で学校の教育目標や教育方針を分かりやすく伝えている。

【職員】

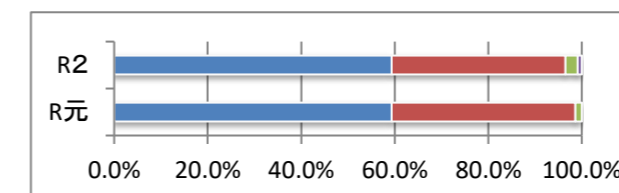
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	55.0%	45.0%	0.0%	0.0%	100%
R2	28.6%	61.9%	9.5%	0.0%	100%



1 学校は、学校(学級)便り等で、教育目標や教育方針を分かりやすく伝えている。

【保護者】

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	59.3%	39.3%	1.4%	0.0%	100%
R2	59.3%	37.2%	2.6%	0.9%	100%

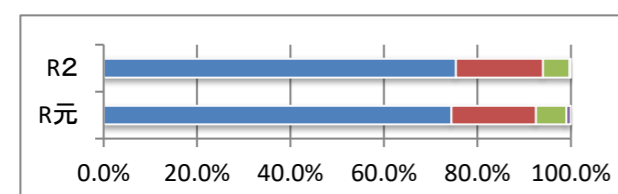


・全体的に昨年度と同様の様相である。児童は学級の目標や頑張ることなどよく知っている割合が増えたものの、「あまりできていない」「できていない」も増えていることから、すべての子に浸透させている必要があり、教職員が個別にしっかりと伝える必要がある。しかし、教職員自身も学校(級)便り等を通じて、保護者にも教育目標や教育方針を発信が「あまりできていない」と感じている。このことは、保護者の「あまりできていない」「できていない」の増加とつながっており、職員が、児童同様に伝わっているか確認しながら、必要な情報を丁寧に伝えていくようにする。

2 学校便りや学級便りなど、学校からのプリント類をお家の人に渡していますか。

【児童】

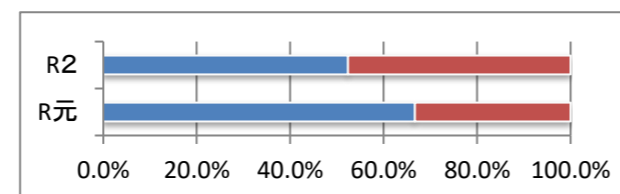
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	74.4%	18.1%	6.5%	1.0%	100%
R2	75.4%	18.6%	5.7%	0.3%	100%



2 学校は、学校便り、学級通信やHP等で学校や学級の様子を伝えるように努めている。

【職員】

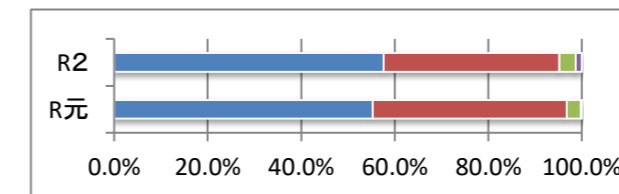
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100%
R2	52.4%	47.6%	0.0%	0.0%	100%



2 学校では、学校・学年・学級通信・ホームページ等で学校の取り組みや子どもの様子を伝えている。

【保護者】

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	55.3%	41.5%	3.0%	0.2%	100.0%
R2	57.6%	37.6%	3.5%	1.3%	100.0%

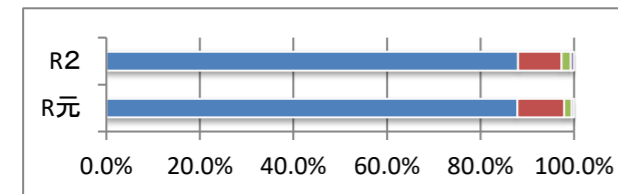


・学校は、通信やホームページで学校や学級での児童の様子を知らせようと努めているが、まだ6%程度の児童は、プリント類を確実に渡せていないと感じている。保護者の手に確実に渡すように個別に継続した指導が必要であり、きちんと渡す習慣を徹底させるようにしていきたい。
 ・昨年度同様、ほぼ伝えたいことが伝わっていると感じているが、5%近くの保護者が、学校の取り組みや子どもの様子が伝わらないと感じている。新型コロナウイルス感染症予防のため、参観の機会や学校に立ち入る機会がかなり減ったことを考えると、学級通信や、学校便り、継続的にホームページからの発信など、積極的に情報提供を行っていくことが必要である。ギガボックス等を有効活用しながら、情報提供を徹底していきたい。

3 学校の行き帰りは、交通事故や知らない人に気をつけたり、寄り道をしたりしないようにしていますか。

【児童】

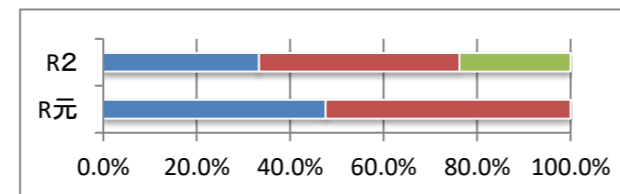
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	87.9%	10.0%	1.6%	0.5%	100%
R2	88.0%	9.3%	2.0%	0.7%	100%



3 学校は、交通安全、危険箇所等に気を配り、火災・地震・水害・不審者への対応について指導を行っている。

【職員】

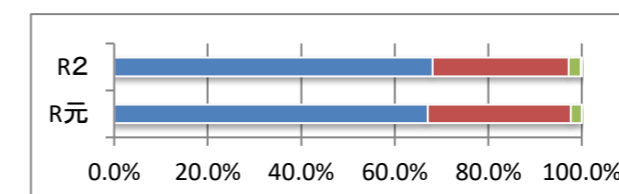
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	47.6%	52.4%	0.0%	0.0%	100%
R2	33.3%	42.9%	23.8%	0.0%	100%



3 学校は、交通安全や災害(大雨 台風 地震)、不審者等、子どもの安全を考えて対応している。

【保護者】

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	67.1%	30.6%	2.3%	0.0%	100%
R2	68.1%	29.1%	2.6%	0.2%	100%

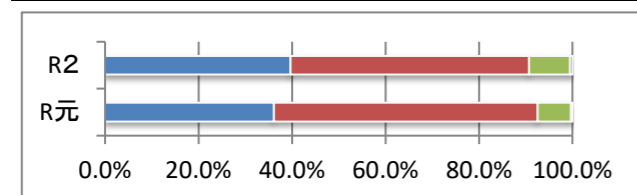


・登下校における交通事故や災害、不審者等の安全面については、昨年度同様に児童も保護者も高い割合で「できている」の方に回答している。教職員の意識としては、学校の取り組みについて、不十分だとする割合が増加している。今後は、想定外の災害等も含め、様々な面からの具体的な取り組みを見直し、基本的なマニュアルの更新を常にしていかなければならないと考える。その際、一部の職員だけで決めるのではなく、多方面から情報を集約したり、全職員の考えも踏まえ、更新していく。また、児童自身にも考えさせたりしながら、危機予知能力や危機回避能力を身に付けさせていく取り組みが大切である。日常的に短時間でできる具体的・実践的な訓練や安全指導を行ってきたい。

4 授業中は、先生の話をしっかり聞き、自分の考えを進んで伝えていますか。

【児童】

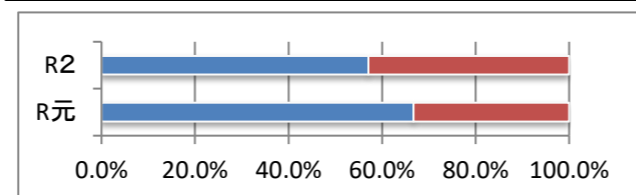
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	36.1%	56.5%	7.1%	0.3%	100%
R2	39.7%	51.0%	8.8%	0.5%	100%



4 我々は、授業力の向上に努め、子どもたちが学力を身につけるような効果的な授業を行っている。

【職員】

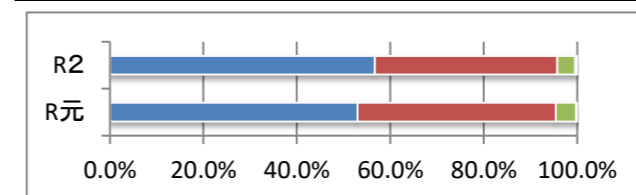
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100%
R2	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	100%



4 学校は、授業力の向上に努め、子どもに学力を身につける効果的な授業を行っている。

【保護者】

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	53.0%	42.4%	4.4%	0.2%	100%
R2	56.7%	39.0%	3.9%	0.4%	100%

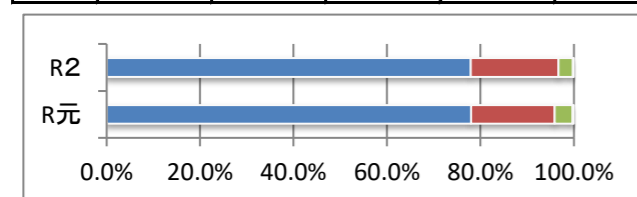


・児童や保護者については昨年度に比べ「よくできる」が増え、やや改善した部分もあるが、児童の中には「あまりできていない・できていない」が増加しており、両極化の傾向が見られる。聞くことや表現することへの必要性や意義などの理解や意識付けが必要である。教師も「よくできている」の割合が減少していることから、臨時休校で遅れた分を取り戻す取り組みも必要だが、今一度、必須の事柄については念入りな取り組みが大事だと考える。児童の地力を付けられる、授業改善をしつつ、継続的で地道な取り組みが必要である。保護者の意識では昨年度より改善している様相があるが、中には依然として5%近くは「あまりできていない・できていない」と感じており、より個の実態や課題に応じた学習を保障できるような取り組みをしていかなければならないと考える。

5 学習の準備や宿題をきちんとしていますか。

【児童】

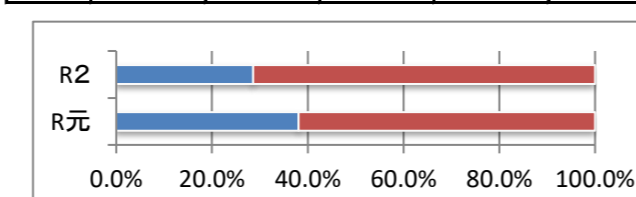
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	78.0%	17.9%	3.8%	0.3%	100%
R2	77.9%	18.8%	3.1%	0.2%	100%



5 我々は、学習の準備、話し方、聴き方等学習習慣の定着に努めている。

【職員】

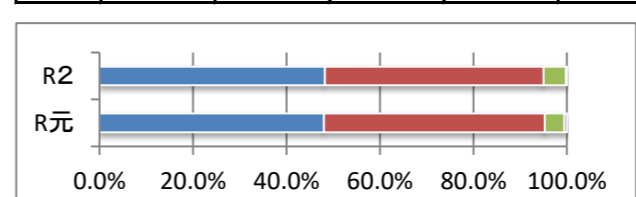
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	38.1%	61.9%	0.0%	0.0%	100%
R2	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	100%



5 学校は、学習準備や子どもの話し方、聞き方等、子どもの学習習慣の定着に努めている。

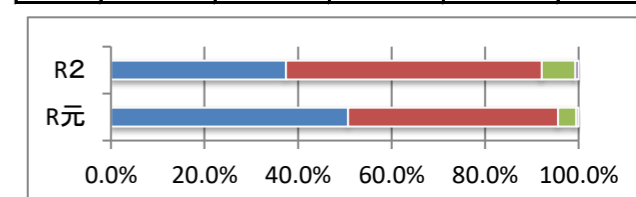
【保護者】

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	48.0%	47.3%	4.2%	0.5%	100%
R2	48.2%	46.8%	4.8%	0.2%	100%



1 家庭では、翌日の学習準備や宿題について、子どもに声かけを行い、結果についても確認している。

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	50.7%	44.9%	3.9%	0.5%	100%
R2	37.4%	54.7%	7.2%	0.7%	100%

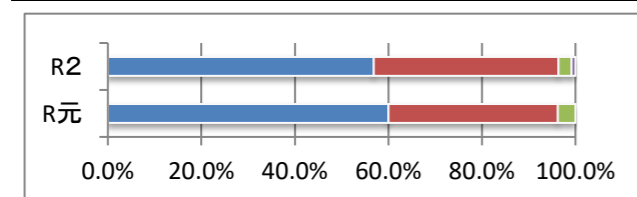


・児童も保護者も「よくできている」「大体できている」等の割合は、昨年度とほぼ変わらないが、職員では「よくできている」の割合が減り「あまりできていない」と思う職員もいることから、意識した取り組みの徹底が不十分だったと考える。新型コロナウイルス感染症予防のためいつも以上にできないこともあるが、工夫次第ではできることもあるので、できるようにするための努力と工夫を常に考えて取り組んでいく必要がある。家庭でも「学習習慣」について、昨年度の方ができていると割合が多く、臨時休校で家庭学習のウエイトが大きくなったこともあり、今後も再びそのような状況に対応できるよう、学校と家庭との明確なつながりがある取り組みや、児童の意識の改善を促すことが必要だと考える。宿題の確認を保護者に一部していただいている取り組みがあるが、保護者との連携をより一層図り、児童が学習習慣を定着できるような具体的なやりとりを行う必要がある。

6 月の生活目標や自分や学校の「あたりまえ」を守っていますか。

【児童】

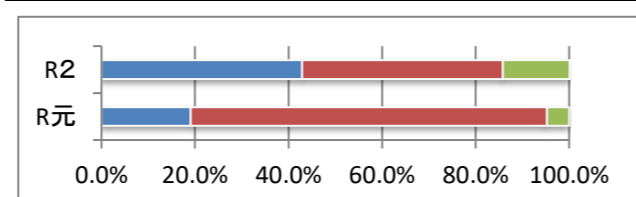
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	60.0%	36.2%	3.8%	0.0%	100%
R2	56.9%	39.5%	2.8%	0.8%	100%



6 我々は、挨拶・後始末・歩き方など生活習慣の定着に努めている。

【職員】

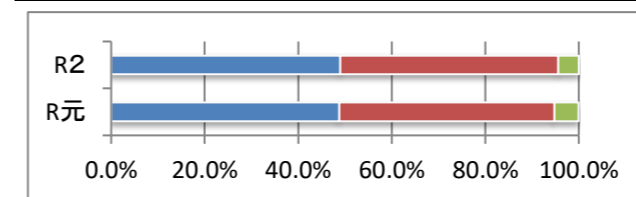
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	19.1%	76.2%	4.7%	0.0%	100%
R2	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	100%



6 学校は、挨拶や返事、後始末等、生活習慣の定着に努めている。

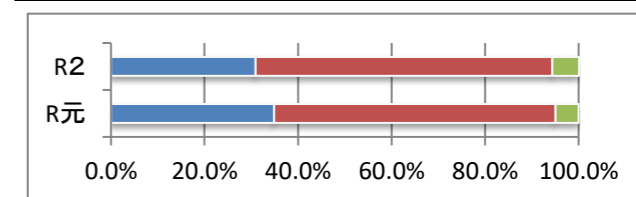
【保護者】

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	48.8%	46.0%	5.1%	0.0%	100%
R2	49.0%	46.6%	4.4%	0.0%	100%



2 家庭では、挨拶や返事、後始末、自力登校等、生活習慣の定着に努めている。

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	34.9%	60.2%	4.9%	0.0%	100%
R2	30.9%	63.5%	5.7%	0.0%	100%

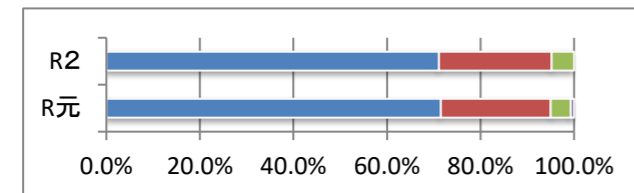


・昨年度は児童会が中心となって「廊下歩行」や「スリッパ並べ」への意識改革への取り組みを行ったが、今年度は、新型コロナウイルス感染症のこともあり、職員の取り組みが徹底できていない部分がある。日常的な場面での指導の徹底や、子どもたち一人一人が意識して取り組むよう、具体的な方法について児童会とともに工夫や改善を進めていく必要がある。挨拶についてはいくらか改善している傾向があるが、後始末や、歩き方などは、まだ不十分であると捉えることができる。しかし、バスの乗り方や車の送迎については、好ましい傾向にあり、主に上級生の姿について地域の方から褒めていただくこともある。育友会の下校時見守りもきちんと情報提供をしてもらっているのでそのことをしっかりと、家庭への啓発や取り組みや具体的な方策につなげていきたい。

7 学校や家で誰とでも仲良く勉強したり遊んだりしていますか。

【児童】

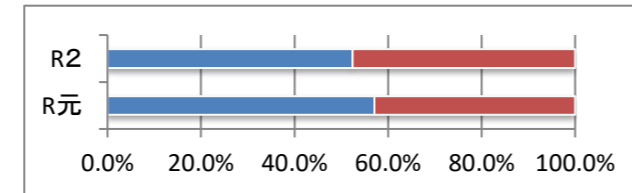
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	71.5%	23.5%	4.3%	0.7%	100%
R2	71.1%	24.1%	4.8%	0.0%	100%



7 我々は、思いやりを育てる指導を行うとともに、いじめの未然防止、早期発見・解決に努めている。

【職員】

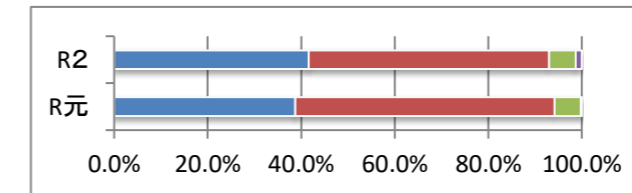
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	100%
R2	52.4%	47.6%	0.0%	0.0%	100%



7 学校は、思いやる心を育てたり、いじめの未然防止、早期発見・解決に努めたりしている。

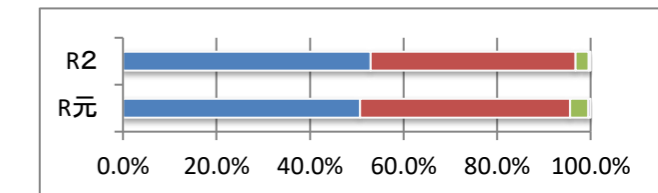
【保護者】

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	38.7%	55.5%	5.6%	0.2%	100%
R2	41.6%	51.4%	5.7%	1.3%	100%



3 家庭では、子どもに誰とでも仲良く学習したり、生活したりするよう声かけをしている。

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	50.7%	44.9%	3.9%	0.5%	100%
R2	53.0%	43.8%	2.8%	0.4%	100%



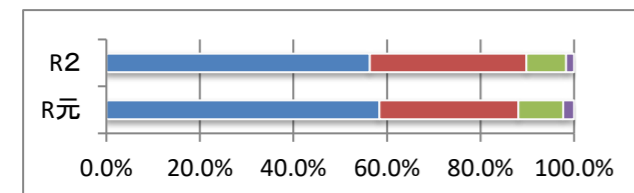
・昨年度とほぼ同じ様相であるが、児童、保護者ともに仲良く勉強や遊ぶこと思いやりの心やいじめの未然防止について、「(あまり)できていない」とする割合がわずかだが増えている。まずは、日頃から防止の具体的な取り組みを継続的に行う必要がある。また、中にはお互いの誤解からこじれている状況もあり、児童、保護者ともに児童も保護者も情報の確認や、感情的すぎない伝え方について学校が調整役を担いながらよりよい関係を構築していきたい。

・「いじめ」調査だけでなく、全職員で日頃から児童の変化を敏感に察知し、早期発見・早期解決に努め、保護者からの情報提供に対しても管理職を含め丁寧に対応していく。そのためにも、担任と児童一人一人のかかわる時間を定期的にかつ必要に応じて設け、子どもの悩みや困り感に寄り添う取り組みを進めていくようにする。(短時間の個別面談を定期的に行うなど)

8 (低)お家で自分の仕事を決めて、忘れずにしていますか。
(高)児童会、委員会、縦割り活動で自分の役割を自覚し、学校や下級生のために活動できていますか。

【児童】

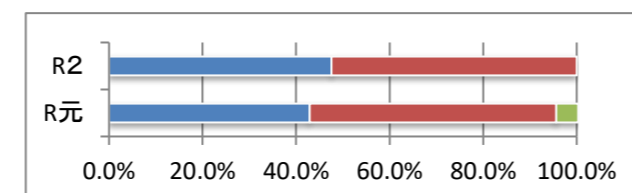
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	58.4%	29.7%	9.6%	2.3%	100%
R2	56.3%	33.5%	8.5%	1.7%	100%



8 我々は、児童会や委員会、縦割り活動を通して、児童の自治力を育成・向上させている。

【職員】

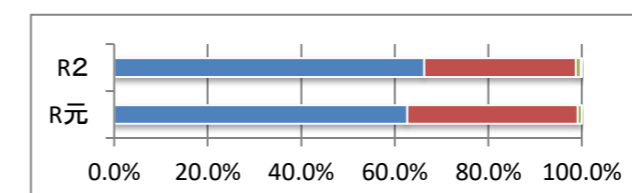
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	42.9%	52.7%	4.7%	0.0%	100%
R2	47.6%	52.4%	0.0%	0.0%	100%



8 学校は、学級活動や児童会活動、縦割り活動等を通して、子どもの自治力を育てている。

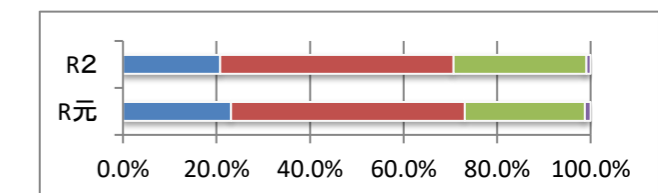
【保護者】

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	62.7%	36.4%	0.9%	0.0%	100%
R2	66.3%	32.4%	1.1%	0.2%	100%



4 家庭では、子どもの仕事や役割を決めて、責任を持たせてさせている。

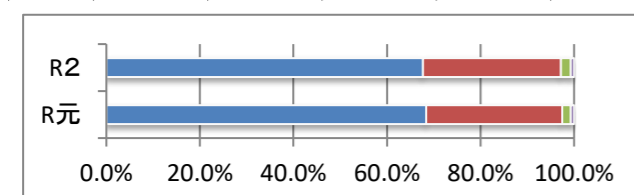
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	23.1%	50.0%	25.7%	1.2%	100%
R2	20.8%	49.9%	28.4%	0.9%	100%



・学校での取り組みについては、前年度より改善してきている傾向にある。しかし、家庭での取り組みとなると「あまりできていない・できていない」の割合が他の項目に比べて多い上に、昨年度に比べ望ましい割合が低下している。家庭での取り組みを促す取り組みや、学校や家庭で児童の頑張りを認めたり生かしたりするようにすることで、児童の肯定感も高まるのではないかと考える。そのためにも保護者との連携をより密にしながら、児童自身が「活躍できる場」をしっかり意識して取り組ませ、その取り組みについて保護者とともに評価し、自己肯定感を高め、意欲的な活動につながるよう取り組んでいきたい。

9 (低)自分が決めたことは、最後までがんばろうとしていますか。
(高)縦割り活動(なかよしタイムなど)で低学年の人が困らないよう、気を配れていますか。

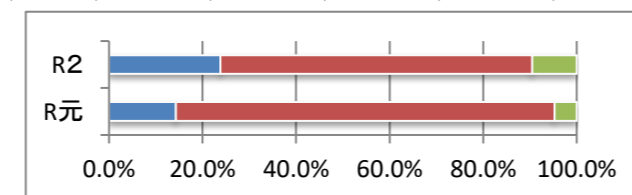
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	68.4%	29.1%	1.8%	0.7%	100%
R2	67.7%	29.5%	2.1%	0.7%	100%



9 我々は、縦割り活動(なかよしタイム等)を通して、リーダー性を育成している。

【職員】

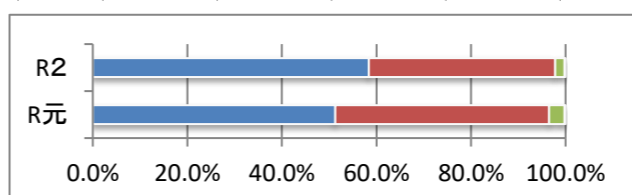
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	14.3%	81.0%	4.7%	0.0%	100%
R2	23.8%	66.7%	9.5%	0.0%	100%



9 学校は、子どもの自主性を尊重しながら、最後までやり遂げるようなリーダー性を育てている。

【保護者】

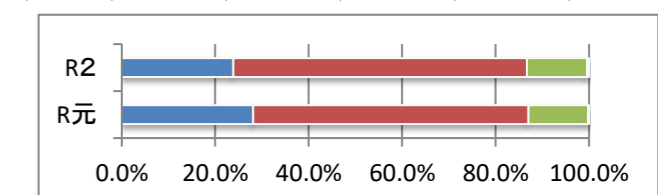
	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	51.3%	45.2%	3.3%	0.2%	100%
R2	58.4%	39.4%	2.0%	0.2%	100%



5 家庭では、子どもの自主性を尊重しながら、最後までやり遂げられるよう、見守っている。

【保護者】

	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	計
R元	28.1%	58.9%	12.8%	0.2%	100%
R2	23.9%	62.8%	12.9%	0.4%	100%



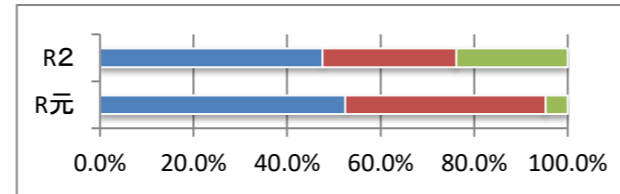
・児童は最後まで頑張ろうとしている割合が多く前年度あまり変わらない結果となっている。教職員・保護者ともに「だいたいできている」の割合が大半を占めているが、教職員も保護者も「よくできている」の割合が増加していることは、改善の兆しの一つとして捉えることができる。一方で「あまりできていない」の割合が増えている職員の意識は、課題として捉えている証拠である。縦割り活動の場が減った(コロナ対策で縦割り遊びが減った)ことも考えられるが、限られた縦割り活動や、各学年学級での「リーダー」としての資質の育成について検討し、今後限られた状況でどのような取り組みを行っていくか検討し実施していきたい。

・「自分で判断すること」「頑張り抜くこと」の大切さについて、学校でも家庭でも継続して保護者と共有しながら具体的に取り組ませ、昨年度以上に児童に「最後までやり遂げること」のよさや承認を明確に伝える場が必要だと考える。

10 我々は、育友会活動に対し、積極的に関わり、必要に応じて相談に乗っている。

【職員】

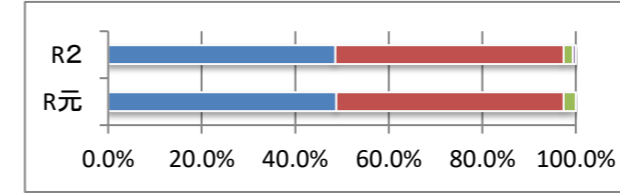
	よく できている	大体 できている	あまり できていない	できていない	計
R元	52.4%	42.9%	4.7%	0.0%	100%
R2	47.6%	28.6%	23.8%	0.0%	100%



10 学校は、育友会活動に対し、積極的に関わり、必要に応じて相談に乗っている。

【保護者】

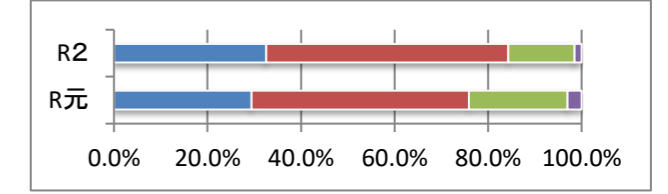
	よく できている	大体 できている	あまり できていない	できていない	計
R元	48.8%	48.6%	2.6%	0.0%	100%
R2	48.6%	48.8%	2.0%	0.6%	100%



6 育友会活動に積極的に関わり、巡回当番や委員会・ボランティアに参加している。

【保護者】

	よく できている	大体 できている	あまり できていない	できていない	計
R元	29.4%	46.5%	21.1%	3.0%	100%
R2	32.6%	51.7%	14.2%	1.5%	100%



・保護者で育友会活動への関わりが十分ではないと回答している割合が、昨年度に比べ減少している。新型コロナウイルス感染症予防のため思うような取り組みができない中、「できる分」での活動で何とか工夫して協力いただいているおかげと考える。学校としても、できるだけ早めに様々な情報を提供したり、依頼を連絡したりすることで、都合を合わせていただきやすくなったと考える。今後も学校からより早めの案内をしていきたい。

・例年以上の参加してくださっている保護者ボランティアをはじめ学校に対して「とても協力的」である育友会のよき伝統を継続かつ子どもに還元していくためにも、職員も保護者任せではなく、できる範囲で協力したり連携しながら、積極的に育友会活動にかかわっていきたい。